

毎日

発行・全日本アリズム演劇会議西会議
事務局 杉田 满 (大阪府職員演劇研究会)
〒536-0014 大阪市城東区鶴野西3-4-3-507
第14号 TEL&FAX 06-6967-5626
2014年9月 担当／林田時夫 (劇団きづがわ)

第12回 全日本演劇 フェスティバル in福島

2014年
8月29日(金)・30日(土)

会場：福島テルサ
〒960-8101 福島市上町4番25号 TEL: 024-521-1500

開場時間
6月29日(金) 10:00 開場式
13:00 全日本演劇フェスティバル開幕式
登壇者（東京近畿圏）演出：井上ひし作
「希望の牧場」

6月30日(土) 11:00 福島県立光南高等学校演劇部公演
社説劇作
「この青い島、ほんとのってこといいですか？
風景、ぱらぱら、ぱらあ」

14:00 全日本演劇フェスティバル
主催者：(劇団きづがわ)演出：かたおかしきらう作
「天満のとらやん」

18:00 県内各公演
13:00 おまつり：吉澤元郎 舞台：新藤久美子作
「希望の牧場」(和歌山)

20:00 閉幕式

6月29日(金) 16:00
「放牧されれば満足か」脚本：井上ひし作
「希望の牧場」

6月30日(土) 16:00
「飛び出す希望路」(NPO農業活性化機構)
6月29日(金)～29日(土) 福島県
料金：希望の牧場・1,000円

■ 第12回全日本演劇フェスティバルin福島実行委員会
TEL: 024-521-0641 E-mail: h29f2014@nifty.com
http://www.nippon-efesu.jp/exhibition/fees/fees2014/index.html

全日本アリズム演劇会議

とどけ福島へ！演劇の力！

震災復興を願い 150名の全演の仲間が集う！

西会議から関西合同「天満のとらやん」でバスツアー(8/28-31)

「とどけ福島へ！演劇の力！」と題されたフェスティバルの開幕式では、福島県立光南高校の生徒さんたちなど福島の人々も含めて200人が集い、震災復興を願っての演劇創造と交流・連帯の広場となりました。西会議からは、関西合同「天満のとらやん」を引っ提げ、最も遠い山口から参加の個人会員・松永さんを含めて総勢38名が参加。

『天満のとらやん』バスツアーには、往きは31名、帰りは28名が乗り込み、舞台も好評とあって和気藹々、楽しいツアーとなりました。

石垣さんは放射線量計を持参され、行く先々でその数値を教えてくれました。出発地の福島駅付近でのバスの中では0・1台だったのが、飯館村辺りでは0・4近くまで跳ね上がる。人家には人影がなく静まり返る。牧場や田畠の跡地は草原のように雑草が生い茂る。

さらにバスは南相馬市の浜通りへ。津波でさらわれた家々、雑草で覆われた田畠、山積みされた車の数々、などを見ながら、途中何度も行き止まりにあいながら、最後に訪れたのは浪江町にある『希望の牧場』という牧場だ。「原発一揆・治外法権」と大書されたカンバンが、その風景の異様さを物語る。

こんな原発から20キロほどしか離れていない所に牛が放し飼いにされ、まるで基地反対や労働争議に出でてくるような「団結小屋」が一軒。その小屋の前で、この非営利社団法人「希望の牧場」の代表の吉澤正巳さんが語る。

「放射能汚染の警戒区域から声なきSOS。見捨てられた命があることを知っていますか？あの牛たちは、福島原発事故の生き証人なんです！」と、自らの被爆を顧みず、警戒区域内に残された牛たちを集め保護し、飼育を続け、その姿を通じて国や東電の責任を追及し、「原発ゼロ」を訴える姿に、みんな固唾を呑み立ちつくしかなかつた。この時、この牧場での線量計は一ミリマイクロシーベルトを超えていた。

往きも帰りも和気藹々、交流深まる『とらやん』ツアー

「とどけ福島へ！演劇の力！」を合言葉に、8月29日(金)～30日(土)の2日間、福島市の福島テルサで開催された『第12回全日本演劇フェスティバル in 福島』は、全リ演の仲間が150名参加、特別公演の福島県立光南高校の生徒さんたちなど福島の人々も含めて200人が集い、震災復興を願っての演劇創造と交流・連帯の広場となりました。

西会議からは、関西合同「天満のとらやん」を引っ提げ、最も遠い山口から参加の個人会員・松永さんを含めて総勢38名が参加。

『天満のとらやん』バスツアーには、往きは31名、帰りは28名が乗り込み、舞台も好評とあって和気藹々、楽しいツアーとなりました。



放射能を浴びた「生き証人」！

3百頭余の牛を飼い続ける「希望の牧場」に息を呑む！

バスツアーは28日夜に大阪を出発。29日8時には福島市に着き、仙台小劇場の代表・石垣さんの案内で、早速、被災地をめぐる。

石垣さんは放射線量計を持参され、行く先々でその数値を教えてくれました。出発地の福島駅付近でのバスの中では0・1台だったのが、飯館村辺りでは0・4近くまで跳ね上がる。人家には人影がなく静まり返る。牧場や田畠の跡地は草原のように雑草が生い茂る。

さらにバスは南相馬市の浜通りへ。津波でさらわれた家々、雑草で覆われた田畠、山積みされた車の数々、などを見ながら、途中何度も行き止まりにあいながら、最後に訪れたのは浪江町にある『希望の牧場』という牧場だ。「原発一揆・治外法権」と大書されたカンバンが、その風景の異様さを物語る。



「希望の牧場」ふくしまで放牧されている牛の群れ。

関西合同「天満のとらやん」

スタッフ・キャスト

かたおかしきらう

楠本幸男(和歌山)

林田時夫(きづがわ)

和田雅子(息吹)

柳辺育彦(息吹)

藤岡英幸(未来)

北尾利晴(フリー)

和田雅子(きづがわ)

花岡蘭(大阪シニア)

青埜充裕(息吹)

伊ナビカリ 鈴木さくら(京芸)

カミナリ 河原正隆(きづがわ)

乙姫 小森健司(フリー)

大坊晴彦(息吹)

下村和行(府職劇研)

橋野悦子(きづがわ)

橋野悦子(西尾純子)

野村雅昭(フリー)

小森健司(フリードラマ)

花岡蘭(大阪シニア)

青埜充裕(息吹)

柳辺育子(息吹)

柳辺育子(西尾純子)



(西会議から参加の仲間・フェスティバルを終え一路大阪へ～8/31朝、福島県高瀬温泉駐車場)

DVD収録溝口 隆徳(フリー)
会計 たけうちよしこ(かすがい)
実行委員長 熊本 一(大阪)
事務局長 杉田 满(府職)
語り お囃子 林田彩 / 山田一己 / 青埜充裕
お囃子 お囃子 柳辺育子(息吹)
語り 大坊晴彦(息吹)
語り お囃子 柳辺育子(息吹)
語り お囃子 柳辺育子(息吹)
語り お囃子 柳辺育子(息吹)

ユーモアたっぷり！大阪弁のステキさ！福島への激励ありがとう！！



関東ブロック合同 『貧乏物語』

- 内輪向にはその努力を称えたいが、セリフが・・・。ケイコがあと10回ぐらいできればすばらしいものになると思う。(全リ演・60代男性)
- 面白い芝居でしたし、演技もセリフもしっかりしていて良かった。前半セリフは残念。井上作品の面白さが半減したと思う。(一般市民・60代女性)

福島県立 光南高校演劇部 『ぱらあら、ぱらあ』



- プラボー！泣いて笑って感動した。福島に住む高校生のまさにリアルなメッセージが伝わる舞台だった。(全リ演・60代男性)
- はつらつとした高校生らしい演技で好感を持てました。原発事故問題、恋の悩みなどを交え、将来どう生きていこうという課題を、草野心平の詩を織り込みながら見事に演じてくれました。(一般市民・60代男性)



京浜協同劇団 ドラマ・リーディング 『空の村号』

- 福島に住んでいて、毎日、放射能のことを考えながら暮らして3年半。改めて、普通の生活が出来ず放射能に翻弄された期間だったと・・・。(一般市民・60代男性)
- 福島が福島を考える良い機会になりました。稽古途中で見たときも泣けましたが・・・今は怒りと共に泣けました。(全リ演・60代女性)

『天満のとらやん』のアンケート感想

- 面白かったです。大阪弁のステキさに楽しめました。(全リ演・60代女性)
- 昔、絵本で見たことのあるコミカルな演劇、楽しく見させていただきました。それぞれの衣装も素晴らしい、子供たちに見せてあげたいくらい楽しい内容でした。ありがとうございました。(全リ演・60代男性)
- 楽しかった！とらやん、身体の動きが凄かった。みんなの役割もそれぞれ良かった。(全リ演・70代男性)
- ウナギを追って福島まで、大変でしたネ！楽しく拝見しました。(全リ演・60代女性)
- ユーモアたっぷりで芝居の可能性を感じさせた企画でした。大阪弁だから成立するのか、東京弁じゃダメなのか。(全リ演・60代男性)
- 楽しかったです。楽器のリズムとスピード感で心地よくなります。これで客席が満席ならもっと盛り上がったと思いますが・・・運営委員の方へ、忙しいとは思いますが地元商店街のチラシの配布やポスター掲示お願いしたら如何でしょうか！(一般市民・60代男性)
- 福島への激励ありがとうございます。お囃子で進行するリズムの良い芝居、楽しむことが出来ました。(一般市民・70代男性)
- テンポ良く歯切れの良い演技につい引き込まれました。福島まで飛んで来て励ましていただきありがとうございます。(一般市民・60代男性)



右は傘屋の青埜さん(息吹)



左はイナビカリの鈴木さん(京芸)と雨子の橋野さんと右はカミナリの河原さん(いずれもきづがわ)



乙姫の花岡さん(大阪シニア演劇)と奥が侍女の西尾さん(きづがわ)



福島の主婦・三原さん(未来)と井上さん(府職)



福島の漁師の野村さん、下村さん(府職)と小森さん。

『第12回演劇フェスティバルIN福島』は、29日午後4時から東西合同の「交流会議」で始まり、その後、新田満さんの講演『演劇ができれば良いのか?』という少し刺激的なタイトルの講演があり、夜は関東ブロック合同による井上ひささんの『貧乏物語』を観劇。舞台が終わって青少年会館での大交流会へと続き、三度バスに揺られて、この日の宿舎となつた飯坂温泉に。翌30日の朝は、福島県立光南高校演劇部による『ぱらあら、ぱらあ』と題する公演を観劇後、『天満のとらやん』の仕込み・リハーサルを行い、いよいよ午後2時から本番。盛大な拍手の裡に無事公演を終え、最後の公演・京浜協同劇団によるドラマ・リーディング『村の空号』を見終わって、2日目は市内から少し離れた高湯温泉の宿舎に移動、西会議から参加の38名の「交流会」を開き、交々に感想を述べ合いました。そして翌31日の朝福島を出発、福島駅でビールを買い込み、バスは一路大阪へと走り、互いに語り合い、歌い合って、盤越道から北陸道、名神高速など12時間の行程を経て、夜9時頃に無事帰阪しました。(実行委員会から送られてきたアンケートの感想文を掲載します。写真はすべて、演集和歌山の楠本さんによる撮影。)